

## 閉会挨拶

日本政策金融公庫副総裁 皆川 博美

シンポジウムの全体の討議を終えましたところで、ひと言ご挨拶申し上げたいと存じます。

本日ご登壇いただいた皆様のさまざまなお話を聞きいたしまして、私自身、いろいろなことを学ぶことができたように感じております。

第1部では、安田先生から、私どもの研究員の研究報告に対して貴重なコメントを頂戴いたしました。ありがとうございました。輸出に関するこれまでの議論の整理とともに、地域資源の活用や日本という国全体の国際的な演出の必要性など、輸出に関連する幅広い視点をご提示いただいたと思っています。

第2部のパネルディスカッションでは、3人の経営者の皆様から輸出に取り組むに当たっての課題や、それを克服するプロセスについて詳しくお伺いすることができました。

さまざまな海外の展示会で自社の強みがわかる製品を見せて、海外の販路を開拓してこられた金子社長、アメリカ人向けの日本食レストランへの地道な提案営業により、サザンビューティーという名で南部美人の販路を開拓してこられた久慈社長、1,200年の歴史をもつ西陣織の新たな用途を海外に見出して、独自に150センチメートル幅の織機まで開発された細尾社長。それぞれの経営者の方々には、国内にとどまりながら外需を開拓するという困難な課題に対するさまざまなヒント、それから元気までいた

だいたように思っております。

私ども日本公庫総合研究所は、中小企業専門のシンクタンクとして、実際の企業と日常的に接触を図るフィールドワークを基本にしながら、冒頭に総裁の細川が申し上げたように、高いレベルの研究水準を追求しております。その意味で、専門の先生や経営者の方々のご協力を得て、広く皆様に成果を発信できたことを大変喜ばしく思っております。改めて皆様のご協力にお礼申し上げたいと存じます。

最後になりましたが、ご来場の皆様におかれましてはご多忙の中お運びいただきまして、まことにありがとうございました。今後も引き続き日本政策金融公庫並びに総合研究所へのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

